

<教育報告>

平成25年度研究課程

健康に関わる要因および乳がんの知識と乳がん検診受診との関連

豊島優人

Health profiles, knowledge of breast cancer, and attendance at a free mammography screening program

Masato TOYOSHIMA

Abstract

Objectives: This study evaluated the associations between women's health profiles, knowledge of breast cancer risk factors, and a free mammography screening attendance.

Methods: A free mammography coupon was sent from June 2010 until February 2011 to women aged 40, 45, 50, 55, and 60 who resided in two areas of Nikaho, Akita, Japan. The health profiles were measured using the EuroQol, and sleep efficiency was measured using the Pittsburgh Sleep Quality Index. Knowledge of breast cancer risk factors was assessed using a self-administered questionnaire. 111 women who responded to the questionnaire were analyzed. The associations were analyzed using logistic regression.

Results: Health profiles were insignificantly associated with attendance. Subjects with a lower habitual sleep efficiency were less likely to have attended a free mammography screening. Subjects with a higher knowledge of five major risk factors were less likely to attend the screening. Subjects who recognized alcohol and diet as risk factors were significantly less likely to attend the screening.

Conclusions: In the current study subjects, women with a low sleep efficiency and those with a higher knowledge of breast cancer risk factors were less likely to attend a free mammography screening.

keywords: Breast cancer, Mammography, Knowledge, Health profiles, Sleep efficiency

Supervisor: Shino OBA, Hiromitsu OGATA

I. 背景

我が国の乳がんの罹患率、死亡数は増加している。このような状況を改善するためには、がん検診受診者の増加が一つの方策であるが、我が国における乳がん検診の受診率は、欧米と比べて著しく低い。がん検診受診行動に影響を及ぼす要因については、これまで主に欧米において、生活の質等の健康にかかる状況、乳がんの知識等の特質について報告が為されている。しかしながら、我が国の一般女性において、生活の質等の健康に係る状況や乳がんの知識等の特質が乳がん検診の受診状況とどのように関連があるかということについて、実際に乳がん検診受診状況を確認し、その関連性を詳細に検討した報

告は我々の知り得る限り無い。

II. 目的

地域の一般女性を対象にその個人が持つ健康プロフィール、睡眠習慣、健康管理能力、健康情報の入手及び乳がんのリスク因子の知識について調べ、それがその後の乳がん検診受診行動とどのように関連するかを検討する。

III. 方法

秋田県にかほ市の2地区に居住する、平成22年度女性特有のがん検診推進事業の乳がん検診の対象となる

指導教官：大庭志野（生涯健康研究部）

緒方裕光（研究情報支援研究センター）

40, 45, 50, 55及び60歳の女性853人を対象とした。

健康プロフィール、健康管理能力、睡眠習慣、健康情報の入手の状況は、それぞれ日本語版EuroQol (EQ-5D)、Perceived Health Competence Scale (PHCS) 日本語版、Pittsburgh Sleep Quality Index (PSQI) 日本語版、Barriers to information access scale (BIAS) の各指標を用いて調べた。乳がんのリスク因子の知識については既存研究に基づきそれぞれ4段階で質問票を用いて調べた。全リスク因子を統合した得点、主要な5つのリスク因子（肥満、飲酒、子供を産んだことがない、初潮や閉経に関する事柄、遺伝）を統合した得点について、それぞれ3分位で検討した。また、乳がんのリスク因子ではないが一般に乳がんの原因と考えられている要因についても同様に質問票を用いて調べた。これらの質問票は、乳がん検診クーポン券を送付する際に同封して配布された。対象者はこのクーポン券を用いて期間内に市内の指定された医院等においてマンモグラフィー検査を無料で受診することができた。対象者の乳がん検診受診の状況は、このクーポン券の使用の状況を調べて確認した。

対象となった853人のうち、231人から質問票の回答を得た（回収率：27%）。そのうち、厚生労働省は2年に一度の乳がん検診を推奨しているため、適正な受診をみるため、1年以内に既に乳がん検診の受診あった人を除外した。さらに、乳がんの既往歴ある人を除外し、111人を本研究の対象とした。

健康プロフィール、健康管理能力、睡眠習慣、健康情報の入手及び乳がんに関する知識と乳がん検診受診との関連についてロジスティック回帰分析を用いて検討した。その際、年齢、BMI、運動量、過去の乳がん検診受診について調整した。

IV. 結果

42人（38%）がクーポン券を使用して乳がん検診を受診した。乳がん検診を受診しなかった人においては60歳代の人が高い割合でみられた。乳がん検診を受診した人においては、運動量が高く、アルコール摂取量が若干高い傾向がみられた。また、乳がん検診を受診しない人においては、これまで一度もマンモグラフィー検査を受けたことがない人が多い傾向がみられた。

最も多くの人が正しく認識していた乳がんのリスク因子は、遺伝（81%）であった。次いで、たばこ（65%）、食事（56%）、子供を産んだことがない（51%）、年齢（51%）であった。肥満、飲酒、初潮や閉経などの生理

に関する事柄、内服の避妊薬、閉経後ホルモン補充療法、子供を母乳で育てない、睡眠習慣、運動不足に対する正しい認識は、いずれも50%未満（28～48%）であった。

健康プロフィールが低い人において、乳がん検診を受診しない傾向がみられたが、関連は有意ではなかった。睡眠効率の低い人には乳がん検診を受診しない傾向が示唆された（オッズ比：0.17, 95%信頼区間：0.04-0.82）。アルコール摂取及び食生活が乳がんのリスクと関連があると答えた人において、乳がん検診を受診しない傾向が示唆された（アルコール摂取：オッズ比：0.29, 95%信頼区間0.10-0.86, 食生活：オッズ比：0.26, 95%信頼区間0.09-0.72）。乳がんの主要な5つのリスク因子の知識のスコアを合計して算出した値が高い人においては、乳がん検診を受診しない傾向が示唆された（オッズ比：0.25, 95%信頼区間：0.07-0.90）。

V. 考察

健康プロフィールと乳がん検診受診との関連はすでにいくつかの研究で指摘されている。本研究でも、健康プロフィールが低いほど乳がん検診を受診しない傾向が示唆された。

本研究では乳がんのリスク因子の知識はそれほど高くなかった。主要な乳がんのリスク因子の知識がある人に、乳がん検診を受診しない傾向が示唆されたが、本研究の参加者では、乳がんの家族歴がある、飲酒量が多い、または、子供を産んだことがない人がほとんどいない。乳がんのリスク因子がない人では、リスク因子の知識は乳がん検診を受診することにつながらない可能性がある。

本研究は十分な参加率が得られず、得られた結果の一般化には限界があると考ええる。しかしながら、アジア人を対象とした健康に関わる要因及び乳がんのリスク因子の知識と乳がん検診受診との関連を検討した研究はほとんどないことから、本研究結果は貴重な情報となるであろう。乳がん検診クーポン券を直接、対象者に送り、医療機関受診後に回収されたクーポン券で乳がん検診受診を確認したことが本研究の利点であると考ええる。

VI. 結論

健康プロフィールが低い女性において乳がん検診を促す仕組みの必要性が示唆された。また、乳がんのリスク因子の知識の普及啓発と同時に乳がん検診受診勧奨が必要であると考ええる。